

巻 頭 言

北海道大学名誉教授 波 岡 茂 郎

20数年前、私共はわが国で初めて無菌豚やノトバイオート豚の作出に成功し、これをもとにSPF豚を作製し一つは実験動物として、一方では畜産目的に利用した。SPF豚は無菌豚とは異なり、特定病原微生物以外の菌を保有しているにもかかわらず、当時マスコミは畜産目的のSPF豚に「無菌豚」という名称を与え新聞の記事とした。これが後日いろいろの誤解・混乱を生むことになる。無菌豚とは germfree 豚のことで SPF 豚とはその状態において全く異なるが、いち早くジャーナリストがこのような表現で SPF 豚を取扱ったことはその後用語の上で種々の問題をかもした。

周知の通り SPF とは specific (specified) pathogen free すなわち特定病原不在という意味であって、この状態は各種動物や用いる目的によって異なってくる。実験動物として用いる場合と畜産目的のときとは、何を特定病原とするかに多少の差が生ずる。ここが無菌やノトバイオートと違って SPF の概念を複雑にしているところである。しかし、学問的には SPF 状態ということは一応国際的に共通の理解がなされているが、畜産目的における SPF 豚という言葉は養豚家をはじめ一般社会では比較的理解し難いものであって、これの普及の隘路となっている。要するに SPF を日本語で適切に表現する一般的な(学術語ではなく)言葉がない。一方欧米では畜産目的の SPF 豚を MD (minimal disease) 豚とよぶ。これは子宮切断または帝王切開によって摘出した第一次(プライマリー) SPF 豚やその F₁ を GGP とすれば、

肥育豚はその保有細菌が GGP に比較して多少異なっている肉質や発育の点で遜色がない場合 SPF よりはその定義がゆるやかな状態の表現として適切である。しかし、この MD なる言葉もまた日本語で表わしにくい。

わが国は平假名でそのまま外来語を直接導入する慣わしがある反面、中国での長音文字は漢字のみであるため欧米の語彙を何とかして中国語に変換しようと努力してきた。たとえばわが国では“typewriter”は“タイプライター”であるが、中国語では“打字機”という。こういったことから SPF swine (pig) もわが国では SPF 豚というところを中国では“無特定病原猪”と称する。

しかし、わが国でも当初から単純に SPF 豚ときめたわけではなく、過去にいろいろの和訳が試みられてきた。そしてその結果“清浄豚”という言葉もかなり普遍化していた。これは清浄野菜からヒントを得たものであるが、清浄という表現は果して動物に適切なものかが問題となり現在ではあまり使用されていないようである。その一方で今や SPF 豚という言葉も定着しつつあるが、やはり一般社会に適用させようとするとき、これはかなり抵抗があることは否定できない。

今後 SPF 豚の飼養頭数が益々増加してゆくものと思われるが、そのよび方は前述してきたようにいろいろあってかなり混乱がみられ、このことが一般社会への受け入れの障害となっはいいのだろうか。古くて新しい問題としてこれらのことを研究会で再確認する必要があると思われる。